

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800078		
法人名	有限会社 ほのぼのライフ		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地 (電話番号)	〒830-0213 久留米市城島町江上657-2 (電話) 0942-62-1330		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(H20年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 11.5 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	木造り			
	2 階建ての		1 階 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	13 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田病院、森歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園に囲まれた敷地には芝生が敷き詰められ、お天気の良い日は散歩などを楽しめる素晴らしい環境に恵まれている。ホーム内は隅々まで清潔で整理整頓が行き届き、明るい自然の光が室内に取り込まれ、快適空間の中で入居者が、ゆったりと穏やかに思い思いに過ごされている。地域との繋がりを大切にしており、一人ひとりがその人らしく過ごせるよう介護計画を立て、家庭的な温かい雰囲気の中でスタッフが目配り・気配りをし、力を合わせ、ケアが行なわれている施設である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価から改善計画を立てて対応している。入浴については、土曜日と日曜日以外は入浴日で入居者の希望や状況に合わせて柔軟に対応、水曜日は、Aユニット・Bユニット共通の希望入浴日として対応している。家族の苦情や要望等の声を聞くため「意見箱」を玄関に設置している。個別の介護計画作成に、職員の意見が反映されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者と職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでおり、改善が見られる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回会議を開き、利用者やサービスの実際・評価などについての取り組みや報告を行っている。また、地域との繋がりを広げることを目的に、老人会の方々の見学や、中学生の体験教育を受け入れる等、地域との交流がみられる。体験した生徒から、お年寄りと交流出来た喜びの体験文が寄せられている。今後も推進会議で話し合い、江上地区の方々との交流を積極的に取り組もうという姿勢が見られる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>入居者家族の協力で、月1回、必ずホームを訪れる仕組みを取り入れ、その時に利用料金を現金で払っていただいている。その際に、一人ひとりの状況を報告し、入居者の介護計画について話し合ったり、家族のご希望を聞いたり、細やかに対応している。「家族の会」はまだ立ち上がっていない。今後、より多くの家族の協力を得るために、また家族同士の悩みや相談ごとが円滑に行われるよう、ホームの対応を期待する。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者と一緒に散歩や買い物に出かけた時など、職員は地域で出会う方々へ気持ちのよい挨拶をし、「ホームに気軽に遊びに来てください」など声掛けをしている。地域の行事には積極的な参加を心掛けている。立地的には隣町との境界が近いため、そちらとの交流の方がしやすいが、ホームは地域密着型社会資源と位置づけられるため、江上地区の方々との交流、地元の小学生や園児との交流なども今後期待する。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ほのぼの」で暮らす人たちが、家庭的な雰囲気の中で、入居者同士の絆を深め、ほのぼのと一人ひとりがその人らしい生活を継続出来るよう、目配り・気配りの支援をしていくという明確な理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は採用時やミーティング等で理念を確認し合い、話し合い、実践の場で日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣町の中学校より体験学習を受け入れ、生徒が入居者と交流するなど、地域活動に貢献している。地元では、老人会の方との交流や、知的障害者の方々の演奏会なども計画している。今までは地理的に隣町が近いために、そちらとの交流を深めていたが、今後は地元の江上地区との繋がりを深めて行動していきたいとのことで、積極的な取り組みを検討している。		隣町の教育機関と連携し、素晴らしい地域貢献が行なわれている。本来の地域密着型施設として、江上地区の方々とも交流を深め、入居者に喜んでもらえるよう地域参加を行い、ますます繋がりを深めていくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、管理者、職員全員で改善計画を立て、シートも作成されている。具体的に居室の環境作りなどに取り組み、整理整頓が行き届いている。		自己評価において、評価項目を具体的に担当者割り振りする等、役割分担し、職員一人ひとりの意識を高め、今後も引き続き工夫されることを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催され、話し合いが行なわれている。会議では地域の高齢者と入居者の交流や地域密着型施設の地域参加をどのように展開させていくか等、意見交換し、老人会の方への呼びかけや、敬老会の参加なども検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者のサービスの質の向上のために、市町村担当者に「介護相談員」を受け入れたいと意思表示を行っているが、具体化されていない。人権擁護の資料を提供してもらったり、不明な点を尋ねたり、不定期に管理者が行政窓口相談に出向いている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者がミーティングや研修報告として内容を伝達している。また玄関に資料を置いて、いつでも家族に説明できるようにしている。		制度の理解と活用については、職員に手元資料を配布し、利用者の家族等へ分かりやすく伝えることが出来るよう、職員一人ひとりの理解が深まるよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	どの家族も月1回ホームに来られるので、その時に利用者の暮らしぶりや健康状態など、個々に報告をしている。「ほのぼの新聞」を発刊し、入居者の暮らしぶりを家族も把握することが出来る。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への満足度のアンケートはとっていない。「家族会」は結成されていない。玄関に意見箱が設置されているが苦情は上がってない。家族の方々の協力により月1回のホーム内での入居代金支払い日を利用して、入居者の報告を行い、できるだけ家族の意見を聞き運営に反映させている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代などはあったが、利用者への配慮として、頻繁に利用者に声掛けして行動を共にし、できるだけ早い期間に馴染み合ってもらおうよう、気配りしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢層は、20代から60代までの幅があり、働きながら介護福祉士の国家資格に挑戦されている人、ヘルパー2級資格を取得する人など、ホームの質の向上を目指し頑張っており、事業所も支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は、ミーティング等で職員に対して、人権を尊重し向かい合うことを指導している。家庭的な中であっても、入居者と馴れ合いにならないよう、実践の場でその都度指導している。		方言には家庭的で大変温もりがあり親しみもわくが、入居者と馴れ合いにならないよう、一人ひとりの状況に合わせた言葉遣い等に、引き続き指導を期待する。
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、研修を受ける機会を確保している。採用時の研修から始まり、職員が交代で社外研修したものについては報告会が行われている。		職員一人ひとりが目的意識を持って介護の専門資格を取得し、入居者へのサービスの向上に繋がるよう、今後も勉強会や研修参加が行われることを期待する。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設とのバレーボールなど行なっている。グループホームの同業者との交流は、管理者同士は話す機会はあるが、職員間の交流は行われていない。連絡協議会に入ることを検討している。		グループホームの同業者と交流する機会を持ち、相互訪問や勉強会など、職員の意見交換などが出来るよう、取り組まれることを期待する。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には家族の方と相談しながら、場の雰囲気に徐々に馴染めるようケース・バイ・ケースで工夫している。入院先から直接入居を希望される方にも対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の良いところを見つけ、誉めて伸ばす対応をしている。若いスタッフは、読めない難しい漢字の読み方を教わったり、お花の名前を教えてもらったり、一緒に作業をする時に入居者の手際の良さに驚いたり、どうしたらそのように出来るのかコツを尋ねたり、一方的ではなく支え合う関係作りが日々の生活の中で行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は一人ひとりの思いを知るために、どのような暮らし方をしたいか、何がしたいか、本人から聞き出し、日々の行動を見ながら、思いなどの把握に努めている。また、家族が来訪された時にも聞くようにしている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族には月1回の来訪時に、計画書を見せて同意を得ている。介護計画のためのアセスメントはフェイスシートと入居後のアセスメントによって作成している。定期的(月末)にカンファレンスを行っている。センター方式のアセスメントはまだ取り入れられていない。</p>		<p>その人らしい生活を支援するためには、一人ひとりの入居前の生活習慣、生活歴、生活環境、社会的背景、価値観など、生活の全体像が把握出来るアセスメントが必要となり、本人の願い、家族の意見、職員の意見を反映させ、今後もチームで引き続き取り組み、その人らしい生活の継続が支援されることが望まれる。(参考としてセンター方式のアセスメントの活用など)</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況変化時には、その都度カンファレンスを開き、計画の見直しを行っている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームには空き部屋や空きベッドがないため、地域の方のショートステイは行っていない。隣にあるデイサービスセンターを希望する入居者は利用している。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力病院の他に、往診を受け入れたり、通院介助を行ったり、家族と相談しながら行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの介護はまだ経験がなく、今後は本人、家族の希望に沿って準備をしていく予定である。終末期ケアのマニュアルや家族の同意書などの準備はしているが、現在看護師は配置されていない。家族の要望があれば、その時点で対応を考えていく方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを大切に、「ほのぼの新聞」に掲載する写真についても、掲載許可の確認を家族に行っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ユニットごとに、ゆったりと過ごされている。個人の状態に合わせ、できることを大切に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の栄養面にはよく気を配り、時間をかけゆっくり会話しながら、ほとんどの方が全量食べられている。敬老会の日ではみんなの意見で、「うなぎ」になったり、お誕生会ではその人の好物を付け加えたり、普段の会話の中でどんなものが食べたいかなどを聞き出し、献立に役立っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、Aユニットは火曜と金曜、Bユニットは月曜と木曜、水曜日は共通の希望日となっており、その人の状態や希望によって柔軟に対応がなされている。土曜日はシーツ交換日、日曜日は面会者が多いので、入浴はお休みとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器を拭く人、メダカに餌をあげる人、花壇で花を植える人、新聞をしっかりと読んでいる人、散歩をする人等、それぞれに楽しみや役割があり、気晴らしのドライブ、外食なども支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩ける方は、散歩などの頻度が高い。歩けない方は、病院の受診後にドライブをしたり、自宅の仏壇に参りたい希望者の要望に応え自宅まで車で送るなど、個別に対応をしている。季節感を味わうため、ひまわりやコスモスの見学、バスハイクなども行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。日中玄関は開放している。2階部分の非常階段のみ、転落防止と入居者の安全のため、施錠している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導と避難訓練を年2回定期的に行い、記録している。地域の方へも近くの町内会役員の方などに協力要請している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が栄養士の資格を持ち、栄養バランス、食事量のチェック表や水分摂取量のチェック表などきちんと記録しており、一人ひとりの管理をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこを見ても清潔で明るく、すっきりと整理整頓が行き届いている。暖かな時期は、共用の居間から中庭に出て外気にふれたり、お茶をいただいたりと楽しむことができ、居心地よく過ごせるように工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの部屋も明るく清潔に整理されている。自宅からいろいろ持ち込まれた居室もあれば、その人らしい生活観があまり感じられない居室もある。室内の雰囲気は家族の思いや願いが反映されている。表札を立派に掲げているので、入居者は間違いなく自分の部屋に安心して入れるよう職員の働きかけや工夫も行っている。		